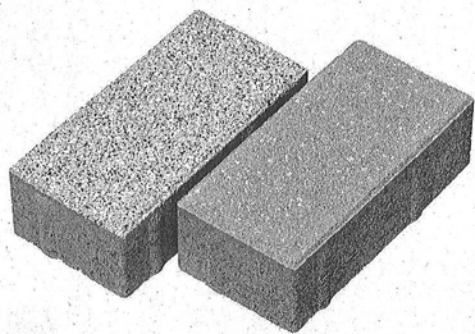


産廃の循環流動ボイラ灰や電線碍子を再利用

脱炭素ブロック販売強化



電線碍子をリサイクルしたパストラル(左)とラネージュ

Remico(レミコ)は、セメントの最大50%を循環流動ボイラ灰と高炉スラグ微粉末に置き換

結合材の一部として北海道電力の厚真火力発電所などから出るフライアッシュを原料に外構の塀などで使う空洞ブロックを古くから製造・販売する。2014年は道内の工場ボイラから出る灰を再利用したインターロッキングブロックを室蘭工

自然保護意識高まり背景に

よねざわ工業

よねざわ工業(本社・恵庭)は、原料の一部に産業廃棄物の循環流動ボイラ灰や電線の碍子(がいし)を再利用した脱炭素ブロックの販売を強化する。火力発電所のフライアッシュを使った空洞ブロックを1993年ごろから製造するなど脱炭素製品の取り組みは古いが、SDGsに代表される昨今の自然保護意識の高まりを背景に、これまで積み上げたラインアップ製品を再アピールする。

えたインターロッキングブロックの商品シリーズ。同社製インターロッキングブロックの約8割が該当する。このうちパストラルとラネージュは、電線の定期交換で処分される絶縁碍子を表面材に使う。絶縁碍子は電線を支えるための器具で、セラミック製のため光り輝く特徴がある。

排出量を最大46%削減できるといふ。インターロッキングブロックを1平方メートル敷いた場合のCO₂排出量は、従来のセメント使用品に比べて6・41%削減できる計算で、トドマツのCO₂吸収・貯蔵量22年分に相当する。ある研究チームによる

排出量を抑えられるためだ。米澤悟社長は「これからも北海道で使われるブロックを北海道の材料を使って作り続けたい。長く使ってもらえるよう品質の良い製品を作ること」は使命。道内企業として北海道で出る産業廃棄物を再利用する姿勢も大切にしたいと話している。

パストラルは、表面にシヨットブラスト加工を施し、セラミックの白い種石を際立たせることで御影石のような印象を持たせた上位商品。ラネージュは、白い種石の混入を自然に表現することで、単色が一般的なインターロッキングブロックと差別化を図った。

同社は、北海道に根付いた製品をモットーに原材料の70%以上を道産材で賄う。道産材料を使用すると運搬距離が短く済み、調達段階でのCO₂



御影石のような印象を与えるパストラル